

東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター研究集会

『ガラス乾板の調査・保存・研究資源化に関する研究』

1, 日時：2014年11月6日（木） 13:00～17:30

2, 場所：東京大学本郷キャンパス 福武ラーニングシアター

(情報学環 福武ホール地下2F)

<http://fukutake.iii.u-tokyo.ac.jp/access/index.html>

[史料編纂所向かいの建物、UT カフェ横の入口から会場に入れます]

3, スケジュール

ご挨拶

本所附属画像史料解析センター長・教授 林譲

報告

①研究プロジェクトの概要・体制について

本所副所長・教授 山家浩樹

②写真史料としてのガラス乾板 -4年間のプロジェクト成果と課題から-

本所史料保存技術室（写真） 技術専門職員 谷昭佳

③日本史研究におけるガラス乾板の史的意義について

本所助教 井上聡 本所特任研究員 木下聡

④ガラス乾板の調書作成・整理から見えてきた様々な劣化状況と保存方法について

本所学術支援職員 竹内涼子

⑤調書作成データ入力システムとガラス乾板画像のデジタル化について

本所史料保存技術室（写真） 技術職員 高山さやか

休憩

⑥写真史料の修復と保全を考える

写真修復家 白岩洋子

⑦パネルディスカッション

写真史料の保存と利活用 -モノ、ヒト、マネージメント、-

パネリスト：埼玉県立文書館 主任学芸員 新井浩文

東京都写真美術館 保存科学専門員 山口孝子

東京大学経済学部資料室 講師 小島浩之

※終了後、懇親会を予定

その他 意見交換及び実物資料のコンディションチェック

研究会に先立ち、関係者（パネリスト含む）の皆様は、ガラス乾板ほか各種の写真資料を内覧いただく時間を設け、コンディションや今後の調査・整理保存に対するコメントを頂く予定です。コメントはパネルディスカッションにて紹介し、討論の素材とさせていただきます。

（写真保存・修復分野の泰斗であるデラウェア大学文化財保存修復学科長のデボラ・ホス・ノリス教授 [Prof. dr. Debra Hess Norris] をお招きし、東京大学学内の各機関が保存している写真資料に対するコンサルティングを予定しております。）

4、趣旨： 東京大学史料編纂所では、明治中期から写真により全国に点在する歴史史料の蒐集を行ってきました。初期の段階では小川一真や工藤利三郎など外部の写真家に撮影を依頼していましたが、明治41年に所内に写真室を設けて以降、今日に至るまで膨大な史料複製を生成しております。そのうちガラス乾板は1万点余に及び、貴重な史料群として活用されてきました。被写体のうちにはすでにオリジナルが消失または所在不明となったものが多くあり、史料学的に高い評価を得ているところです。加えて近年ガラス乾板そのものが、写真史のうえで極めて重要な資料として評価されるに至り、その整理・保存・活用にむけた条件整備が求められています。

史料編纂所におきましては、2011年度から、ガラス乾板の研究資源化を前提とする、状態調査と整理保存に関する研究プロジェクトを立ちあげ、これまでに全体の約1割強にあたる1千3百枚余のガラス乾板について、状態調書の作成とデジタル化を進めて参りました。ガラスという取扱いの難しい形態をもち、かつ様々な経年劣化が進行している資料を、いかに効率的に保全・活用するかは、専門分野や組織を越えた大きな課題となっています。まだ試行錯誤の段階ですが、これまでの経験と成果をご報告するとともに、ご参加の皆様からご意見をいただければと考えております。

主催：東京大学史料編纂所附属画像史料解析センター／同プロジェクト「本所所蔵台紙付写真・ガラス乾板に関する研究プロジェクト」（研究代表者：久留島典子）

科学研究費補助金基盤研究（A）「ボーンデジタル画像管理システムの確立に基づく歴史史料情報の高度化と構造転換の研究」（研究代表者：山家浩樹）

◎ご参加を希望される方は、史料編纂所 HP (<http://www.hi.u-tokyo.ac.jp/index-j.html>) ニュース&トピックス欄より参加フォームを開き、ご記入ください(9月1日よりUP予定)。また参加にあたり公文が必要な方は、事務局(gazo@hi.u-tokyo.ac.jp)までご連絡ください。